



<ひとこと>花粉シーズン到来!この時期の3種の神器は、ティッシュ、マスク、目薬ですね。

## 平成22年度 第4回あいネット運営委員会

### 2月16日 開催



今年度は「市役所の仕事を知らう」というテーマで関係各課をお招きしています。

今年度最後の運営委員会（2月16日開催）は、『児童家庭部生活支援課』三富主幹から生活保護行政を取り巻く社会環境の変化と政策動向等のお話を頂きました。以下、お話の抜粋です。

#### 国の動きとして・・・

1. 生活保護の動向・・・景気動向との相関性として、保護率は昭和26年度、24.2%。一時バブルの影響等もあり平成7年には7.0%まで下がったのですが、平成21年には15.4%と増加しています。（全国）※ %⇓千人単位

2. 生活保護増加の要因としては、まず雇用情勢の悪化、金融危機から実体経済に波及していること。次に高齢者世帯の増加が挙げられ、団塊世代の離職（定年・リストラ）。高齢者世帯の所得格差が大きいために、無年金、定額年金者も増加している。老齢基礎年金よりも生活扶助基準の方が高いという場合もあるようです。

3. 貧困を背景とする諸問題・・・多重債務⇓消費者金融、家賃滞納等から生活費を圧迫、貧困のスパイラルに陥る方もいます。児童虐待・高齢者虐待・DVや、子どもの貧困⇓教育投資の不足から低学力・低学歴、そして不安定雇用・貧困の再生産があります。

新たな貧困対策の導入として、ホームレス自立支援法（平成14年）・自立支援法プログラム（平成21年）等の第2のセーフティネット等が導入されました。

また、21世紀セーフティネットの模索として、ナショナルミニマム研究会実施、生活保護受給者の社会的な居場所づくりと新しい公共に関する研究会を、社会的孤立や経済的支援に結びつける支援を議題として、企業・NPO・市民等と協働で行っているとのこと。新たな貧困対策の導入として、ホームレス自立支援法（平成14年）。自立支援法プログラム（平成21年）。第2のセーフティネット等が導入されました。

生活保護に至った後、保護に留まらずに次のステップへ進めるよう、自立支援プログラム、自立助長を効果的に実現するための施策が実施されています。

柏市では、子どもの貧困対策として、生保受給世帯の子どもの対象とした「塾」を行う動きもあるようです。

委員の方からは、生活保護受給に至らないが厳しい生活を送っている「はざま」にいる方の問題があるとの意見がありました。

生活保護受給に至るには社会情勢の影響・雇用情勢、健康、虐待、貧困の連鎖・・・と様々な要因があります。生活保護に対して、楽をしている、貧困者からの「お世話になるのは気がひける」という声や、不正受給、貧困ビジネス等、社会にはマイナスのイメージが多いのも事実ですが、生活保護は国民の権利であり、保護を必要としている方がいらつしやいます。保護受給後どうしていくかが大切だと感じました。



## 心の病を知る講演会

“助けて”といえる地域づくりに向けて『心の病の理解と地域における支援』（2月26日開催）

柏市社会福祉協議会と精神障害者家族会よつば会共催の「心の病を知る講演会」は今回で第10回を迎え、初めての試みであるシンポジウムを行いました。登壇したのは、当事者2名と当事者の家族、支援者として作業所の職員と民生委員の計5人。

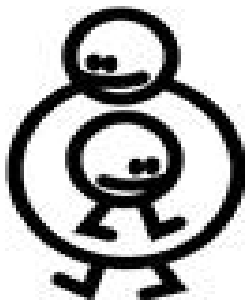
それぞれの方から自分の立場や自分のことを語り、会場とのやりとりがありました。

当事者や家族の方が闘病の体験から得たことや、今の生活・これからのことを前向きに語る姿には勇気をもたらしたとの声がありました。

\* \* \* \* \*

質問には、今精神障害を抱える家族を持ち、出口を見出せない闘病生活の苦しみの発言があり、家族もまた苦しんでいることも率直に語られました。

まだまだ家族が抱え込まざるを得ない状況が多くあることが現状です。



「医療計画における精神疾患の位置づけに関する提案」の中では（統合失調症・うつ病・認知症・発達障害も含まれる）精神疾患の患者はH8年には218万人という数字からH20年には1.5倍の323万人にのぼり、がん・糖尿病・脳卒中・心筋梗塞という四大疾患をしのぐいわば国民病といえると言書かれています。

いわばありふれた病気であり、統計によると生涯有病率は24.2%（米国は46.4%）と、決して誰にとっても無縁の話ではありません。

もし自分だったら、自分の家族だったら何をどうするか、何をどうしてもらいたいのか、そのためには何が必要か、具体的に考えていくことが必要だと感じました。

## 第3回

### 自立支援協議会

今年度最後の自立支援協議会が2月25日、開催されました。各部会からの報告（今年度の報告と来年度に向けての部会のあり方の提案）がありました。

次年度に向けては、はたらく部会、子ども部会、相談支援部会はそれぞれ継続することが提案されました。そのほかに、はたらく部会⇓職場実習事業の実施。

子ども部会⇓子ども相談支援連絡会、児童発達支援センター連絡会の組織化。

相談支援部会⇓部会の中に相談支援連絡会⇓相談支援事業に携わる担当者の連絡会の設置。も提案されました。

自立支援法の一部改正があり、その中の多くは24年4月からの施行になります。自立支援協議会の位置づけが法的に根拠付けられ、市町村が障害者基本計画を作成する際にも自立支援協議会の意見を聞くこととされるなど、一定の権限があるものに変わっています。法の改正に追いつくような変化が求められてくるところです。改正についてまだ読み込めていないところや、今後を待たなければならぬ内容もありました。法改正には常に付きまとうことですが、またしばらく振り回されるかねない状況を考えると、そうではなくわが市はどうしていくのかということをきちんと議論すべきではと強く感じます。



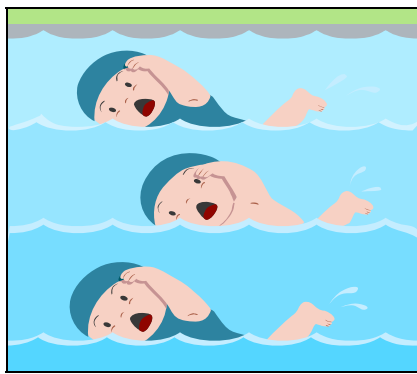
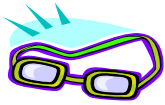
# リフレッシュプラザ柏



リフレッシュプラザで行われているスイミングレッスンを取材しました。本日は「わんぱくスイム」の時間。「わんぱくスイム」とは、4歳以上の未就学児を対象としており、「水」という環境の中で楽しみながら安全なプールの利用法を学習します。取材した時は、児童のレベルに合わせて3つのグループに分けてレッスンしていました。あるグループでは4～5名のお子さんがプールサイドに手を付いてバタ足をしています。水へ興味を抱くお子さんに、優しくレッスンするスタッフの姿が印象的でした。レッスン中はお母さん同士の語らいの時間にもなり、お母さん達のリフレッシュの時間になっているように見えました。安全面には特に気をつけており、常にスタッフがプールサイドで見回りをしているので、お母さんも安心して見ていただける環境がありました。

1時間ごとにクラスのレベルが違っており、年齢や内容によっていくつかのクラスに分かれています。一番下のレベルの「すくすくスイム」ではオムツが完全に取れたお子さん～4歳までを対象にしています。

水遊びを中心に子ども達だけで楽しく水に慣れ親しんでいきます。障害のあるお子さんでも、オムツが完全に取れており、排泄が自分で出来るお子さんであればレッスンに参加出来るとの事。事前にリフレッシュプラザのスタッフにご相談下さい。

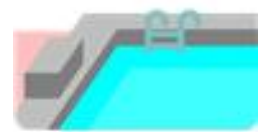


かしわ  
**柏うお～か～**  
あいネットが気になる街の事業所にお邪魔します。



<お問い合わせ>

- ・リフレッシュプラザ柏  
千葉県柏市南増尾 58-3  
南部クリーンセンター隣
- ・TEL: 04-7173-5900
- ・利用時間: 9:00～22:00 休館日: 火曜日



## おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707FAX:04-7165-8709)まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
<b>第4回かしわっ葉 ～ボランティアまつり～</b>  柏少年少女合唱団・手品(TOMAC) 体験(点字・手話・要約筆記など) 講演セミナー「高次脳機能障害」 販売(バザー・陶芸品・おしるこ等) 映画上映&講演会 「在宅医療:最後まで住み続けられるまちを目指して」柏市社協	<b>3/13(日)</b> <b>10:00</b> <b>～15:00</b>	柏市教育福祉会館 柏市中央公民館			共催:「かしわっ葉ボランティアまつり」実行委員会・柏市ボランティア連絡協議会 問い合わせ:事務局 西村 TEL:04-7134-0828 URL: <a href="http://kashiwavren.web.fc2.com/">http://kashiwavren.web.fc2.com/</a> 後援:柏市・柏市教育委員会 柏市社会福祉協議会
<b>高次脳機能障害者の社会参加 ～3年間のボランティア活動の事例をとおして～</b>  講師:渡邊 修 氏 (首都大学東京 大学院人間健康科学研究科 教授)  吉田 謙 氏 (千葉県障害福祉課 精神保健福祉推進室 室長) 他	<b>3/19(土)</b> <b>13:00</b> <b>～16:00</b>	千葉市ハーモニープラザ・1階多目的ホール	500円	必要	主催:VAIC コミュニティケア研究所・千葉県千葉リハビリテーションセンター 後援:千葉県・千葉市  問い合わせ・申し込み先: VAIC コミュニティケア研究所 TEL:043-204-3304 FAX:043-204-3307